

東研サーモテック

来年、中国工場が稼働

日系向け熱処理受託

東研サーモテック（大阪市東住吉区、川崎修社長、06・6714・2425）は、2011年に中国・江蘇省蘇州市近郊で熱処理の受託加工を始める。5月をめどに用地を確保し、100%出資の子会社を設立。8月にも工場を着工し、11年春の稼働を目指す。投資額は約15億円。高品質熱処理に対する日系の自動車・建設機械部品メーカーなどの需要を見込み、11年度に4億円の売り上げを狙う。

東研サーモテックは2月、社内に中国事業準備室を立ち上げ、工場用地や導入設備、人員採用など計画の検討を始めた。

1万5000平方メートル程度の敷地に、床面積約3000平方メートルの工場建屋を設ける予定。

中国では総合熱処理メーカーとしてガス浸炭や無酸化焼き入れ、窒化、コーティングの各種加工に対応する。日本と同様の熱処理加工品目を想定。このため工場内にはバッチ式ガス浸炭炉、連続メッシュ式焼き入れ・焼き戻し炉、物理気相成

長（PVD）コーティング装置を、それぞれライン導入する。

現在、蘇州市近郊の開発区を候補に、関係者と交渉を進めている。半徑

200キロ以内の上海、無錫、常州、杭州各市を商圏とみて、日系自動車部品メーカーが内製でまかないきれない機械部品への熱処理をカバーする。

中国には現地の熱処理事業者が多いが、日本企業が求める品質レベルの加工ができていないケースが多い。このため日系大手メーカーは進出時に熱処理設備を併設しているが、高稼働時には能力不足が生じている。

東研サーモテックはこうした需要を開拓。熱処理設備を持たない日系の中小部品メーカーにも売

日刊工業新聞

2010年（平成22年）3月18日付7面

日刊工業新聞社からの転載許可に基づいて掲載
本記事への著作権は日刊工業新聞社に帰属します
記事への改編、他への転載は一切禁止致します